

# epoch

エポック No116

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

令和3(2021)年3月 発行

## 第13期第2回 概要報告



1月29日、第2回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。この会議では、2年間の任期の中でテーマを設定し、区長に対して提言を行っていきます。昨年からのコロナ禍は、学びや活動そのものと、生涯学習施策目標にも大きな影響を与えています。今期（第13期）は、現在の状況をふまえて今後の生涯学習のありかたについて具体的に検討を行っていく予定です。第2回の今回は、千代田区の生涯学習施策の状況について情報共有を行い、各委員による意見交換を実施しました。

以下、概要をお伝えいたします。

## 今期のテーマについて



### 1. 千代田区の生涯学習施策

・千代田区全体の基本計画「ちよだみらいプロジェクト」は、中間年にあたる令和元年度に見直しが行われました。成人年齢の引き上げや人口増加による生涯学習の対象者数、事業の対象範囲など、目標設定が今後の課題となっています。この時点では新型コロナウイルス感染症はなかったため、社会情勢の変化を加味していく必要があります。

### 2. 今後の進め方

・コロナ禍の課題と取り組み例の資料紹介を行いました。緊急事態宣言も2回目となり、施設貸出しの影響、情報格差、働き方の変化は区民の学習活動に影響を与えています。今後も引き続き調査や報告、検討された内容や意見を踏まえ、次年度の下半期には、区として取るべきアクションを盛り込んだ提言書をまとめることとなります。

### 3. 意見交換の主な内容

- 「ちよだ生涯学習カレッジ」は2回目の宣言のいま、会場が夜間貸出中止のため夜間の授業が不可能であり、前回の緊急事態宣言時にオンラインとリアルハイブリッド型で行った経験から全てオンラインで行っている。受講生それぞれのネット環境や状況の違いに対応している。
- Zoomの利用がやはり多いが苦手意識を持つ人が多いので、講座前Zoom入室テスト、使い方セミナーを開催している。
- 高齢者向け講座にタブレットの貸与があった。1回このような機会に触れると、タブレットもスマホも使いこなしたくなった。しかし皆さんとも触れ合う機会を持ちたいとも思った。

- 高齢だからと受け身にならず、自分で発信できる方は多くいらっしゃる。まだできるのに、もったいない人材を多く見る。
- 利用する側にしても、発信側になるにしてもオンラインや配信など、あの人に聞けば操作方法、つなぎ方がわかるなど、中間支援するアドバイザーやコンシェルジュがあればよいのではないか。
- Zoomの使い方を一人でトレーニングしたあとに皆でオンライン会をやっていた。会えない中でも、むしろつながりはできたということがあった。新しい可能性だと思った。
- 学校において、大人の中で「ICTが苦手」などの差だけでなく、その結果が生徒や、ICTに長けている保護者等にも影響を及ぼすのは日々の課題と感じている。
- 情報格差の問題、ICT関係に触れてこなかった人や高齢者の参加が課題になるのではないだろうか。
- 生涯学習自体が、体験や経験、空気や知識を共有するものではないかと思うので、オンラインはそこから考えると絆創膏程度にしかならないのかなと思う。一方的でなく双方向であっても空気が共有できないから、オンラインは根本的な解決ではないのではないか。
- 生涯学習と社会教育では実践活動を土台としてきたためオンライン活用の問題に取り組んできていない経緯がある。家庭学習でつながりをつくるのも情報格差の是正をどうするかが課題となる。そのためにはメンターが必要となる。企業のテレワークもメンター活用が議論されている。生涯学習と社会教育も、もっと真剣にこの問題を考える必要がある。
- つながっていける人と、つながっていけない人たちをどう支えていくかは非常に先進的なテーマであり、支えていくための養成から研修も含めて、何か「ちよだ生涯学習カレッジ」でできればよい。

- Zoomの「活用」はできているが、Zoomの利用をお手伝いするということに思いが至らなかった。コミュニティの中で活動するにも、今はコミュニティ活動が止まっているため、それ以上の発想をしていかなければならないのだと気づいた。メンター的な人の養成から実践との言葉が出ましたが、「ちよだ生涯学習カレッジ」でも1つの要素として取り入れるとよいと考えた。
- 生涯学習の中で、一切をオンラインや遠隔型にするのではなく、小さくして続ける両立の在り方も検討の課題になりそうだ。
- オンラインは絆創膏、と意見が出ましたが、コロナが落ち着いてくると絆創膏を少しはがしても大丈夫になるかもしれない。そのときに、オンラインのノウハウが手段として残ってくる。世代による伝え方やフォローのしかたを充実させることで、これが1年後、2年後にはさらによりよい手段となっていくのではないか。



#### まとめ

この1年間コロナの問題が広がり、何をやっていいのかわからないなか、すぐに答えが出るわけではありませんが、情報収集、各所の意見を集約していきたいと思いません。

実際の学びや体験の共有、リアルが完全になくなってしまふのは生涯学習の本来の姿から外れてしまうので、リアルと遠隔の両立のあり方、情報格差の是正に向けたフォローのしかたが検討課題となるのではないのでしょうか。



# リレー随筆

「より芸術しやすい環境づくりを」

齋藤美明

舞台の仕事をしていると、いろんなホールに行ったりするが、千代田区で興行以外の舞台仕事は、あまり多くないと思っていた。

千代田区にホールが少ないかといえば、そういうわけではない。

客席数も多く、立派で綺麗なホールもある。

しかし、調べてみると、アマチュアが発表などで使用できそうな客席数 200～500 席程度のサイズのホールが非常に少ない。興行向きな 1000 名規模のホールはあれど、中小規模の手ごろなサイズかつ使用料のホールがほぼない。

千代田区は文化事業として、歴史的な部分については力を入れているが、生涯学習という観点においては、芸術を発表・披露できるようなホールなどの「場」が少ない。

もちろん、各種施設に併設される多目的ホールなど使って発表するというのが悪いわけではない。

しかし、中小規模のホールを多く有する他の区と比べると、改善の余地はありそうだ。

千代田区という場所柄、土地の価格が高く、そもそも場所もないなどということがあるかもしれないが、それこそ民間ではなく行政主導にて、小規模のホールを作ったり、中小サイズのホールを使用する区民などに対して金銭的な補助をするなど、積極的にバックアップを進めてほしいと願う。

歴史だけでなく文化の千代田区を自慢してみたい。

「知的障害者の生涯学習」

鈴木やす代

この委員会を担当している生涯学習スポーツ課が事務局となり、いつもお世話になっている事業の1つに千代田区“日曜青年教室”があります。中卒以上の知的障害者が月2回生涯学習館でいろいろなプログラムを体験できるというものです。4月の開講式に始まり、料理、水泳、小金井にある畑で植え付け、収穫、パソコンで暑中見舞葉書をつくったり、皆の楽しみな宿泊学習、千代田フィル鑑賞、茶道、国際交流、ボーリング等々。午前と午後、いろいろ考えて下さり、お手伝いの方々も多数いらっしゃいます。

地元中学の茶道部の皆様や、ボランティアの方々、小学館のスタッフの皆様にもささえられてきました。

障害者が余暇をどう過ごすかは、家族、本人にとってとても大切なことです。

会社や福祉施設で働いて、週末楽しく過ごせる“青年教室”はとても貴重です。初めてのプログラムでも数回体験し、教えてくださるとできるようになり、楽しみになってきます。

余暇の過ごしせ方は家庭だけでは大変です。会社や施設で働いたり、作業をして、週末、仲間と楽しむ生活は障害者健常者問わず健康的といえると思います。

青年教室はもう40周年をこえました。皆様と同じく、はやくコロナ禍が終息に向かい、また仲間と共に体験し学ぶ日がくることを願っています。

## 【編集後記】

第13期千代田区生涯学習推進委員会議第2回のエポックは、昨年からのコロナ禍での学びや生活において感じたこと、行動していることなど委員からの自由意見を中心に掲載いたしました。次回の会議では、引き続き今期のテーマについての話し合いをしていただく予定です。

お忙しい中リレー随筆をお引き受けいただきました齋藤委員、鈴木委員に、心から御礼申し上げます。次号エポックも、よろしく願いいたします。

## 【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課  
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1  
TEL 03(5211)3632  
FAX 03(3264)1466  
E-mail shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp